

| | |
|-----------|-------------|
| 2013年度 後期 | リフレクションペーパー |
|-----------|-------------|

| | | | | | | | |
|-------------------|--|--------------|-----------|------|------|-----|-----|
| 学科名 | 電気通信工学科 | | | | | | |
| 科目名 | 送配電工学 | | | | | | |
| 科目区分 | 専門科目 | 単位数 | 2単位 | 開講時期 | 3年後期 | | |
| 必修・選択の別 | 選択科目(組込みシステムコース)／選択必修科目(電気エネルギーコース)／選択科目(情報システムコース) | | | | | | |
| 担当者 | 松崎 隆哲 | | | | | | |
| 授業の到達目標(シラバスから) | <ul style="list-style-type: none"> ・送配電線路の電気方式を理解し、電圧降下、線路損失の計算ができる。(A1,A9,A10,C6) ・送電線路の線路定数、電気特性を理解し、送電電力の計算ができる。(A1) ・送電線路の故障計算ができる。(A1) | | | | | | |
| 日程と内容 | 9/17 導入講義 9/24 架空送電線路 10/1 架空送電線路と雷などの気象対策 10/8 地中送電線路 10/15 架空送電線路の線路定数 10/22 架空送電線路の等価回路 10/29 架空送電線路の電力円線図(四端子定数) 11/12 架空送電線路の安定度 11/19 故障計算(パーセント法) 11/26 対称座標法による故障計算 12/3 故障計算 12/10 中性点接地方式 12/17 配電方式 12/24 総合演習 1/14 総合演習 1/21 定期試験 | | | | | | |
| 成績評価基準 | 定期試験 | 70% | 実技 | | | | |
| | 臨時試験 | | 部外評価 | | | | |
| | 報告書・レポート | | プレゼンテーション | | | | |
| | 課題 | | 計 | 100% | | | |
| | 演習 | 30% | | | | | |
| 授業到達目標の達成度 | 授業内容に関して、いずれの到達目標に対しても概ね達成できている。 | | | | | | |
| 反省点 | 交流の複素平面や三相交流に関する学生の知識が不足しており、基礎知識が不足している学生にとって授業内容が難しく理解しづらい内容となってしまった。演習を毎回の授業で実施したが、基礎知識が不足している学生はわからない点をそのままにしてしまい、結果として不合格となってしまった。 | | | | | | |
| 来年度の計画 | 電験3種の試験の際に必要な項目(特に計算)について説明を増やす。電力計算に必要な基礎知識が不足している学生が多いので、計算に関する演習と説明を取り入れていきたい。 | | | | | | |
| 授業評価アンケートに対するコメント | 総合評価は7.7点であることから、学生の満足度は良くなかったと思われる。その理由として、「授業の内容は理解できましたか」が3.6点であることから、授業内容が難しかったと考えられる。これは、送配電工学の授業内容が、交流や三相交流の概念を理解していることが前提となっているからと考えられる。授業内容を変更することは、電気主任技術者の資格に関係する科目であることから、難しいことから、演習等を多く取り入れて理解できる様にしていきたい。 | | | | | | |
| 履修登録者数 | 42名 | 定期試験 受験者数 | 28名 | 合格者数 | 15名 | 合格率 | 54% |